

◆第10期 山梨県地球温暖化防止活動推進員を募集します

令和3年9月から「山梨県地球温暖化防止活動推進員」として、積極的・自主的に、地域での地球温暖化対策に推進に取り組んでいただける方を募集します。活動内容は、自分の身の回りという身近な場所で、率先して温暖化防止活動を行っていただくとともに、ご自身の関心のある温暖化対策について、ご家族・友人・地域の方々などに地球温暖化対策に関する指導や助言を行うなど様々です。また、温暖化対策に関する県民運動「やまなしくールチョイス県民運動」に率先して取り組むと宣言し、「やまなしくールチョイスサポーター」となっていたいただき、ご活躍いただきたいと考えております。合わせて、山梨県では、推進員を環境家計簿アプリ「えこメモ」などのツールや各種取組情報の提供、研修会などを通じて支援していきます。

※6月現在、第10期の公募は、まだ開始されていません。公募開始されましたら山梨県WEBにUPされます

●お問合せ

山梨県環境・エネルギー部 環境・エネルギー政策課 〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1
電話番号:055(223)1506 ファクス番号:055(223)1636

◆八ヶ岳自然ふれあいセンター夏休み展示 JICA×SDGs 「山梨県 JICA 事業紹介パネル展」

皆さんは“JICA”と聞いて何を想像するでしょうか？
開発途上国への資金援助や青年海外協力隊、もちろんそれも正解です。でもそれだけではない！山梨にはJICAと協力して開発途上国で活躍する人たちがたくさんいます。今回はそんな人たちにスポットを当てた紹介パネルを作成しました。時代のキーワード、SDGsを切り口にもまとめられていますので、その視点でもご覧いただけます。あなたの知らない山梨県内のJICA事業、この機会にぜひご覧ください！



- ・日時／2021年7月21日～8月31日 9:00～18:00
- ・会場／山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター（北杜市高根町清里 3545 公益財団法人キープ協会）

●お問合せ

山梨県地球温暖化防止活動推進センター（ページ一番下を参照）

◆ソーラークッカー全国大会 WEB ページのご案内

「ソーラークッカー全国大会」のWEBが新たに出来たそうです。ちなみに、山梨県は、第2回大会の際に関わらせて頂きました。以下が、ご案内文です。
”かねてより準備しておりました、ソーラークッカー全国大会運営委員会が三月に発足し、このたびHPが公開されました。

◆ <https://www.zasshi.jp/sc/>

閲覧をきっかけに、こんな企画があるなら地元へ呼び込んで開催したい、という主催者を募り輪が広がる事が出来ればと願っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。”

ソーラークッカー全国大会運営委員会事務局 滝沢 本春



発行； 『山梨県地球温暖化防止活動推進センター』 公益財団法人キープ協会
〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里 3545 キープやまねミュージアム内 TEL:0551-48-8011
FAX:0551-48-3577 Mail: eco@keep.or.jp URL:http://www.keep.or.jp/yccca/



2021年6月
つうしん21号

山梨県 地球温暖化防止活動推進を担当される

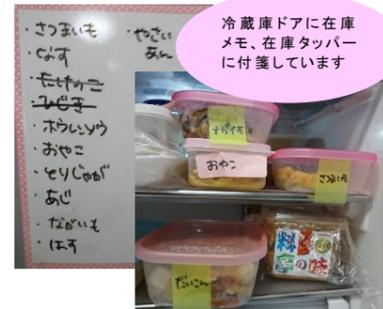
山梨県 環境・エネルギー政策課 新担当者の方よりご挨拶です

この4月に環境・エネルギー政策課に参りました長澤と申します。宜しくお願いします。

これまで長く経験した業務は、課税と文化芸術の振興に関することですが、環境に関する業務も実は2回目です。採用前の面談で環境問題に関する業務に関心があることを話したところ、今回と同じ、地球温暖化対策の担当での採用となり、平成15、16年の2年間、従事しました。

そんな私ですので、まだマイバッグの持参などほとんど話題にならなかった四半世紀前、既に「レジ袋いりません！」を実践し、アイドリングストップ機能が標準装備される前の車の時から、長めの赤信号ではエンジンを切るなどの取り組みをしていました。

最近ではまっている取り組みは、冷蔵庫の見える化です。作り置きおかずが見える化することで「食ロス」「無駄な冷蔵庫ドア開閉」を削減できます。バランスよく食事を作ることにもつながり一石二鳥以上の効果を感じています。身近な取り組みは、地球温暖化防止に貢献しているという実感はわきづらいのですが、ひとりひとりが取り組みれば大きな力になります。一緒に取り組みを推進していきましょう！



やまなし気候変動適応センター が設置されました 令和3年2月

近年、気温の上昇、大雨の頻度の増加、農作物の品質低下、動植物の分布域の変化、熱中症リスクの増加など、温室効果ガスの排出が主な要因である気候変動の影響が全国各地で確認されており、さらに今後も拡大が懸念されています。

気候変動に対処し、将来にわたり人々の生命・財産を守り、経済・社会の持続可能な発展を図るためには、二酸化炭素等の温室効果ガスの排出を抑制して、温暖化の進行を「緩和」することに加え、気候変動による被害の回避・軽減を図る、気候変動への「適応」に取り組むことの、両方が重要になります。

このため、県では、気候変動の影響による被害を回避・軽減するため、様々な分野の情報収集に努めるとともに、県民の皆さんなどへの情報発信を通じて、県全体での取り組みの推進を目的とした、「やまなし気候変動適応センター※」を令和3年2月に県庁内に設置しました。

センターでは、富士山科学研究所や果樹試験場などの試験研究機関と連携して、気候変動が及ぼす農作物などへの影響に関する研究データや知見を分かりやすい形で提供するとともに、国立環境研究所、気象台、地域の大学等との連携を通じ、地域における気候変動影響や気候変動適応に関する情報基盤の強化を図ります。また、山梨県の地域特性を踏まえた情報収集・分析に努め、地域の取り組みの推進に向けて中心的な役割を担っていきます。

※気候変動適応法第13条に基づく地域気候変動適応センター

○やまなし気候変動適応センターHP

<https://www.pref.yamanashi.jp/kankyo-ene/trkioucentar/top.html>

組織改編により、森林環境部環境・エネルギー課は令和3年4月1日より環境・エネルギー部環境・エネルギー政策課となりました。また、執務室は県庁本館2階から8階へ移りました



マイクロツーリズム フットパス は Coolchoice な旅のスタイル

with コロナ時代、キープ協会では新しい旅行のスタイル、マイクロツーリズムをテーマにした事業に取り組んできました。自宅から1~2時間圏内の地元または近隣の宿泊観光や日帰り観光を指す『マイクロツーリズム』。その中でも、私たちは“フットパス”をテーマに、北杜市白州地域を歩いて旅するセルフガイド冊子と動画『水の山フットパス』を作成しました。



フットパスとはイギリス発祥の旅のスタイルで「歩くことで地域を元気にすること、その道のこと」を指します。旅人は出会う風景や人に元気をもらいますが、同じように地元の人も旅人との出会いや旅人から地元の魅力を褒めてもらうことで元気をもらえます。歩くことでその町の景観や文化に愛着を持つ人が増え、ファンが増えることで守られるものも増えるという考えです。

そんな素敵な思想の元に広がるフットパス、山梨県内にもあちこちルートが設定されています。ぜひ近所のフットパスを歩いてみてください。また県内 250 冊のフットパス冊子をまとめる「まちみゅーガイドブック」も人気です。

そして、歩くことで私たちが健康になって、地域の新しい魅力を改めて発見できることだけでなく、移動手段で出される炭素が抑えられることで地球も喜ぶ cool choice な旅のスタイル！これから益々、広げていきたいです

★まちみゅーガイドブック WEB
<http://www.2a.biglobe.ne.jp/~yamaiku/index.html>

★水の山フットパス YouTube
<https://www.youtube.com/watch?v=0LygGsBxnS4>

2050年温室効果ガス排出実質ゼロに向けて やまなしゼロカーボンシティ

気候変動の影響により世界的に深刻な自然災害が発生しており国内でも猛暑や豪雨災害による甚大な被害が発生しています。2015年、パリ協定では「産業革命前からの平均気温上昇の幅を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有。2018年に公表された気候変動に関する政府間パネル報告書では、1.5℃に抑えるためには、2050年までにCO2排出量を実質ゼロとすることが必要だと科学的に示されました。

この目標の達成に向け、2009年に山梨県は全国に先駆けて、2050年までのCO2排出量の実質ゼロを表明し、2019年に環境大臣が全国自治体に「ゼロカーボンシティ」の呼びかけを行ったことを機に動きが広がりを見せ、2020年には政府が「2050年までの温室効果ガス排出実質ゼロ」を宣言しました。

山梨県は日照時間が長く多くの森林資源や水資源など豊かな自然が存在します。私たちは将来にわたり豊かな自然と人とが共生・調和できるよう、ここに2050年までの温室効果ガス排出の実質ゼロを共同で宣言し、各自治体の特性を生かしながら、全県一丸となって今後さらに取り組みを推進します。

2021年2月15日
やまなし「ゼロカーボンシティ」共同宣言自治体代表
山梨県知事 長崎 幸太郎

山梨県市長会 会長 甲府市長 樋口 雄一
山梨県町村会 会長 南部町長 佐野 和広



2017年4月、地球温暖化の問題を扱う本としては、極めて画期的な本がアメリカで出版されました。それが「ドローダウン:地球温暖化を逆転させる100の方法」です。この本は、ニューヨークタイムスが発表するベストセラーにもなっていて、しばらくNYT環境系ランキングで1位を続けていた本です。

何が画期的だったかと言うと、それまでも温暖化対策系の本はたくさん出版されてきましたが、「何が温暖化対策として一番有効なの？」と言う問いに答えてくれる本はなかったのです。なので、調べれば調べるほど混乱し、さらに「温暖化懐疑論」的な立場の情報も山のようになり、混沌の渦に巻き込まれてしまう人も多かったことでしょう。(↓下へ)

「地球温暖化 今なら

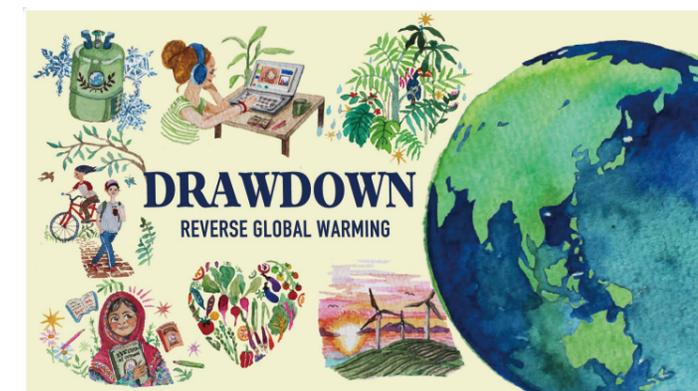
逆転できるって聞いたらどう感じますか？」

NPO 法人セブン・ジェネレーションズ理事・

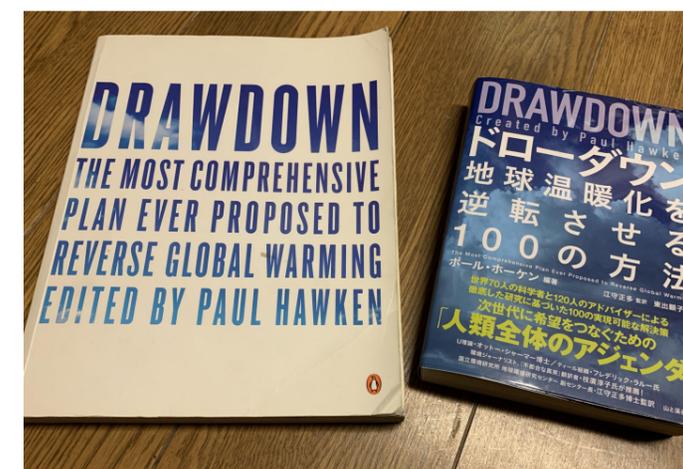
ハケ岳清里 竹早山荘スタッフ 関口 守

この本の主編者 ポール・ホーケンさんもそんな混乱した一人だったようで、様々な人に有効な解決策を聞いて回ったところ、誰もその答えを知らない。。。と言うことで、気象から物理、生態学、ビジネス、海洋、農業など22カ国70人の専門家チームと128人の各専門分野アドバイザーの協力を得て、何百という「温暖化対策」とされる解決策を調べて、その効果をランキング形式でまとめる本を作ったわけです。

ランキングは、それが実行された時の温室効果ガス削減量、世界規模で実施した際にかかるコスト、そしてもしそれが実施されなかった場合に、将来的に起きうる損失額、の観点でランキングしたそうです。



ランキングした解決策の中には、「なるほど、そうだろうな」と思うものもあれば「これが解決策になるの？」というものもあると思います。風力、太陽光などの自然エネルギーがランキングに入るのは頷けると思いますが、他には、肉食中心の食生活だったり、食料廃棄の削減だったり、女子の教育なんてのもあるのです。さて、気になるランキングは。。。ぜひご自身で手にとって確認してみてください。



この本が取り扱っている地球温暖化とは「人間の活動が元になって発生している温室効果ガスによる温暖化」です。人類が引き起こしたことは、人類の手で変えることができる。というのが、ポール・ホーケンさんの発想です。彼はインタビューで「地球温暖化は、私たちに地球が与えてくれた美しいフィードバックだ。もし、そのフィードバックがなければ、私たちは破滅に突き進む以外にないでしょう。でも、地球は私たちに機会を与えてくれているのです」と言っています。

地球温暖化は大気の問題で、大気は繋がって地球上の全てを包んでいますから、その解決策も多種多様、一見無関係に見えるような人間の活動が、巡り巡って温暖化にすごく大きな影響を与えているということもあるわけです。

地球が私たちに与えてくれたフィードバックを受け取るかどうかは私たち次第。本を見ると、私たちが個人レベルでも、地域レベルでも、会社レベルでもできることがたくさんあります。

さあ、一緒に温暖化逆転しにいきましょう！